

## 学校体育授業を通じたライフスキル教育の現状と展望

杉山, 佳生  
九州大学健康科学センター

渋谷, 崇行  
県立新潟女子短期大学幼児教育学科

西田, 保  
名古屋大学総合保健体育科学センター

伊藤, 豊彦  
島根大学教育学部

他

<https://doi.org/10.15017/10776>

---

出版情報 : 健康科学. 30, pp.1-9, 2008-04-15. 九州大学健康科学センター  
バージョン :  
権利関係 :

— 総 説 —

## 学校体育授業を通じたライフスキル教育の現状と展望

杉山佳生<sup>1)\*</sup>, 渋谷崇行<sup>2)</sup>, 西田保<sup>3)</sup>,

伊藤豊彦<sup>4)</sup>, 佐々木万丈<sup>5)</sup>, 磯貝浩久<sup>6)</sup>

### Current status and prospect of life skills education through physical education in schools

Yoshio SUGIYAMA<sup>1)\*</sup>, Takayuki SHIBUKURA<sup>2)</sup>, Tamotsu NISHIDA<sup>3)</sup>,  
Toyohiko ITO<sup>4)</sup>, Banjou SASAKI<sup>5)</sup> and Hirohisa ISOGAI<sup>6)</sup>

#### Abstract

In this article, the current status and future prospect of life skills education through physical education in schools were discussed. First of all, several life skills training programs through sport or physical activity were introduced and the studies in which the effects of such programs have been evaluated were reviewed. Then, the studies investigating the effects of social skills training in physical education settings in schools were reviewed. The results of these studies suggest that it would be possible to teach various kinds of life skills in physical education classes. However, it was insisted that, because of the differences of education systems between Japan and other countries, original programs and/or procedures teaching life skills through physical education in schools should be developed. Additionally, it was emphasized that generalization or transfer should be taken into consideration to implement the life skills training programs in schools. In the final part of the article, some suggestions for developing effective life skills education systems through physical education in schools were presented.

*Key Words:* Life skills education, physical education in school, generalization, review

(Journal of Health Science, Kyushu University, 30: 1-9, 2008)

1) 九州大学健康科学センター Institute of Health Science, Kyushu University

\*連絡先: 九州大学健康科学センター 〒816-8580 福岡県春日市春日公園 6-1 Tel&Fax: 092-583-7856

\*Correspondence to: Institute of Health Science, Kyushu University 6-1 Kasuga-koen, Kasuga, Fukuoka 816-8580, Japan  
Tel&Fax: +81-92-583-7856 E-mail: sugiyama@ihs.kyushu-u.ac.jp

2) 県立新潟女子短期大学幼児教育学科 Department of Early Childhood Education, Niigata Women's College

3) 名古屋大学総合保健体育科学センター Research Center of Health, Physical Fitness and Sports, Nagoya University

4) 島根大学教育学部 Faculty of Education, Shimane University

5) 仙台電波工業高等専門学校総合科学科 Department of General Sciences, Sendai National College of Technology

6) 九州工業大学情報工学部 Faculty of Computer Science and Systems Engineering, Kyushu Institute of Technology

## はじめに

ライフスキルは、「日常生活で生じるさまざまな問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な（心理社会的）能力」<sup>1)</sup>などと定義されており、近年、青少年が身につけるべき技能（スキル）として、注目を集めている。体育・スポーツ心理学領域においても、このライフスキルに対する関心が高まっており、2007年度の日本スポーツ心理学会第34回大会では、一般発表<sup>2)3)</sup>だけでなく、ワークショップ<sup>4)</sup>やシンポジウム<sup>5)</sup>でも、ライフスキルが取り上げられている。残念ながら、ライフスキルが本来の意味で取り扱われていないというようなケースも含まれているが、今後、いっそう注目されていく可能性のあるテーマであることは否定できないだろう。

本稿では、このような体育・スポーツ科学界での動向を踏まえた上で、小学校、中学校、高等学校といった学校における体育（以下、学校体育とする）の授業を通じたライフスキル教育の可能性を論じることとする。具体的には、まず、諸外国において、スポーツを通じて行われているライフスキル教育プログラムとその効果を概観し、続いて、ライフスキルと密接に関連する変数である、社会的スキルを扱っている実践的研究を振り返る。そして、これらの研究や実践の成果をもとに、わが国の学校体育場

面へライフスキル教育を導入することができるのかどうか、また、できるとすれば、どのような課題があるのかを検討することとした。

## スポーツを通じたライフスキル教育

Danish らが、生涯発達を目指した介入（Life Developmental Intervention : LDI）の必要性を主張し<sup>9)8)</sup>、そのモデルに基づいて開発された「GOAL」というライフスキル教育プログラムがアメリカで普及し始めたのは、1990年代になってからのことである。このGOALは、特にスポーツを用いるプログラムではなかったのだが、その内容がアレンジされ、あるいは参照されて、スポーツを通じた様々なライフスキル教育プログラムが作り出されるようになった。スポーツや身体活動を活用している代表的なライフスキル教育プログラムには、各種スポーツに適用できるSUPERプログラム、ゴルフを通じて行われるThe First Tee、アメリカンフットボールを用いたPlay It Smartプログラム、NCAAが導入しているCHAMPS/Life Skillsプログラム、さらには、身体活動を通じた責任教育（Teaching Responsibility through Physical Activity）などがある。表1は、これらのプログラムを紹介している文献を示したものである。

これらのプログラムに共通しているのは、1回数

表1 スポーツに関連したライフスキル教育プログラムを紹介している文献

文献	紹介されているプログラム
Danish (1997) <sup>9)</sup>	GOAL
Danish (1996) <sup>10)</sup>	GOAL, SUPER
Danish & Nelllen (1997) <sup>11)</sup>	GOAL, SUPER
Danish (2002) <sup>12)</sup>	GOAL, SUPER
Hodge & Danish (1999) <sup>13)</sup>	GOAL, SUPER
Danish (2000) <sup>14)</sup>	SUPER
Danish, Forneris, & Wallace (2005) <sup>15)</sup>	SUPER
Danish, Fazio, Nelllen, & Owens (2002) <sup>16)</sup>	SUPER, The First Tee
Danish (2001) <sup>17)</sup>	The First Tee
Petitpas & Champagne (2000) <sup>18)</sup>	Play It Smart
Carr & Bauman (2002) <sup>19)</sup>	CHAMPS/Life Skills プログラム
Hellison (2003) <sup>20)</sup>	責任教育
Hodge, Cresswell, Sherburn, & Dugdale (1999a) <sup>21)</sup> , Hodge, Cresswell, Sherburn, & Dugdale (1999b) <sup>22)</sup>	GOAL, SUPER, 責任教育, Project Adventure, Project K
Danish, Hodge, Heke, & Taylor (2003) <sup>23)</sup>	GOAL, SUPER, 責任教育, RAP (Rugby Advantage Program), The First Tee
Danish, Forneris, Hodge, & Heke (2004) <sup>24)</sup>	責任教育, SUPER, ニュージーランド・マオリ族専用プログラム
Sherrman (2000) <sup>25)</sup> , Sherrman (2001) <sup>26)</sup>	オリジナルライフスキル教育プログラム

十分から2時間程度のセッションを、数回から10数回にわたって実施するという構成になっているところである。また、様々なライフスキルを、ワークショップのような実習を通じて、学習させようとしている点も、共通した特徴であると言えるだろう。なお、教育対象となっているのは、一部、大学生も含まれているが、多くは、小・中・高等学校の年代である。

ところで、このようなライフスキル教育プログラムの効果については、プログラムの開発当初から、その検証の必要性が唱えられてはいたものの<sup>15)24)</sup>、また、一部の研究において、要約として提示されていたが<sup>9)11)17)</sup>、必ずしも十分に検証されているとは言えなかった。しかしながら、2000年頃より、いくつかの実践的研究において、その具体的効果が明らかにされるようになってきた。

Papacharisis et al.<sup>27)</sup>は、10～12歳のギリシャ人女子バレーボール選手と男子サッカー選手を、介入群と統制群に分け、介入群に対し、SUPERプログラムの短縮版を実施した。プログラムは、毎回15分で8回実施された。測定された変数は、スポーツスキル、ライフスキルに関する知識、目標設定・問題解決・積極的思考に関わる能力に対する自己信念などであった。介入の結果、スポーツスキルも含めたすべての変数において、得点の向上が認められた。

Brunelle et al.<sup>28)</sup>は、SUPERの内容を取り入れたThe First Teeプログラムを、11～17歳の青少年を対象に、ゴルフアカデミーで実施した。プログラムは、1回45分、5回で構成されており、加えて、プログラム終了後、1年間の地域奉仕を義務づけた。測定は、社会的責任、対人反応性(共感性)、社会的関心、目標設定に関する知識、目標設定に関する自己効力感、社会的望ましさについて行われた。結果は、ゴルフアカデミーでの介入により、社会的責任、社会的関心、目標設定に関する知識の向上が認められ、また、社会的責任と対人反応性は、地域奉仕活動期間を通じて、向上した。

このThe First Teeプログラムの効果については、公式ホームページ上に公開されている報告書「Impact Report 2003-2006」<sup>29)</sup>にも示されており、研究の手続き等の詳細は明示されていないが、プログラムへの参加により、ライフスキルに関する知識の向上や、挨拶行動、敬意の表出、感情統制、目標設

定スキルの改善、さらにはライフスキルの般化、維持が認められたことが報告されている。

また、Petitpas et al.<sup>30)</sup>は、高校生アメリカンフットボール選手に対して行ってきたPlay It Smartの効果をもとめており、学業成績の向上、卒業率の向上、地域活動への参加の増加、健康増進行動についての知識の獲得が認められたことを指摘している。

このように、表1に示したような、アメリカやニュージーランドにおいて広く普及しているプログラムの効果が明らかにされつつある一方で、オリジナルのプログラムの効果の検証も行われている。Barclay et al.<sup>31)</sup>は、「SMARTT」と名づけた、サッカーを用いるライフスキル教育プログラムを実践した。このプログラムの目的は、課題志向的目標設定ができるようになることと、そのスキルを日常場面に般化させることであった。11～13歳のサッカー選手が参加し、20分10回のプログラムを受講した。結果、動機づけ志向性は課題志向にはならず、動機づけも高まらなかったが、目標設定に関する知識は、全般的に向上する傾向にあった。Tester et al.<sup>32)</sup>も、シンガポールで行われたThe Sports Challengeプログラムの効果を検討し、6～16歳の青少年の自尊感情が向上したことを報告している。

さらに、スポーツを通じたライフスキル教育プログラムの基礎となっているGOALの効果の検証も行われている。O'Hearn & Gatz<sup>33)34)</sup>は、ヒスパニック系の中学生及び高校生を対象にGOALプログラムを実践し、目標設定に関する知識が増加し、目標に関する問題解決スキルも向上することを確かめた。

なお、国内では、スポーツを通じたライフスキル教育に関わる、児童・生徒を対象とした研究は、プログラムの効果の検討といった視点からはほとんど行われておらず、学校での運動部活動や運動・スポーツ経験とライフスキルとの関係の検討といったものが中心となっている<sup>35)36)37)38)39)</sup>。

以上概観したように、スポーツを通じたライフスキル教育プログラムについては、プログラムの内容や対象とするスポーツ、扱う変数や分析方法などは様々であるが、一定の効果が示されつつあるようである。今後も、効果が生じるメカニズムの解明や理論的検証も含めて、プログラムの有効性の更なる検証が必要ではあるが<sup>40)</sup>、青少年のライフスキル教育において、スポーツ活動や身体活動を有効に利用す

ることができるという主張は、理解を得られるものであると思われる。

### 学校体育授業におけるライフスキル関連教育

ここまでは、青少年を対象としている、スポーツを通じたライフスキル教育プログラムに言及してきた。スポーツ活動や身体活動を用いることで、効率的にライフスキル教育を行うことができるのであれば、学校体育という場においても、ライフスキル教育が可能であると考えられる。それでは、このような学校での体育授業を通じてのライフスキル教育に関する研究の現状は、どのようになっているのだろうか。この点に関しては、「ライフスキル」という用語を用いている研究や実践はわずかしかないのだが<sup>41)42)</sup>、「社会的スキル (social skills)」という用語を用いて、研究が行われているようである。また、学校体育における実践的研究などでは、ライフスキルの一部の要素を対象としているような場合も、見受けられている。

たとえば、いくつかの論文<sup>43)44)45)46)</sup>において、体育やスポーツは、社会的スキルを学習することができる場であると論じられているが、そこでは、社会的スキルという概念が、ライフスキルとほぼ同義で用いられている。また、Bailey<sup>47)</sup>は、学校体育の効用に関するレビュー論文の中で、体育が、自尊心や有能感などの情緒的発達や、道徳性、責任感、社会的スキルなどの社会的発達、さらには知的能力などの認知的発達にも資するものであることを指摘しているが、これらの心理変数の多くは、ライフスキルの要素であると言えるものである。

それでは、ここで、ライフスキルの要素とみなせるような変数を用いた学校体育授業研究のいくつかを、概観することにする。これらの研究はすべて、キーワードの1つに、「社会的スキル」を挙げている。

Branta & Goodway<sup>48)</sup>は、週2回の体育の授業を活用して、低社会的スキル者への介入活動を行った。対象は、幼稚園児と小学4年生の児童であった。これらの子どもたちに、個人空間の意味や身体の動きに強弱をつけることの意義を教え、またそれらを体験するような介入を行った。その成果として、園児・児童の秩序を乱す行動を減少させることに成功しており、体育の授業が、反社会的行動の低減や授

業での注意持続の向上に有意義であると主張した。

Solomon<sup>49)</sup>は、小学2年生を対象に、道徳教育を取り入れた体育の授業を実践した。授業では、信用、援助、問題解決、身体気づきの4つの教育テーマが設定され、計13回行われた。具体的には、社会的スキルを高めるために、創造的問題解決、ジレンマ体験、般化作業が、段階的に導入された。結果として、「分配公平尺度 (the Distributive Justice Scale)」の得点が向上した。

Vidoni & Ward<sup>50)</sup>は、小学6年生を対象にして、従属的集団随伴的強化 (集団のメンバーの一部が基準をクリアすると、集団全体に褒賞が与えられる) が体育の授業でのバレーボールの試合中の相互支援行動 (ハイタッチや声援) に及ぼす影響を検討した。統計的検定は行われていないが、授業中の支援行動が増加する傾向が認められた。

Kolovelonis et al.<sup>42)</sup>は、中学生に対し、体育の授業で、目標設定、積極的思考、セルフトークといったスキルの指導を行った。その結果、体育授業における自己決定力が向上した。

さらに、MacPhail et al.<sup>51)</sup>は、Siedentopのスポーツ教育理論<sup>52)53)</sup>に則った体育授業を、小学5年生に行い、長期にわたる同一メンバーでのチーム活動が、集団への同一性感や関与のあり方にポジティブな効果をもたらすことを確認している。

このように、体育の授業の中で行われた社会的スキルを高めるような教育にも、一定の効果があることが示されている。しかしながら、諸外国で行われているこれらの実践の多くは、体育授業という場を利用して、ライフスキル (社会的スキル) 教育を行っていることとみなすことができるものである。すなわち、身体教育よりも心理社会的なスキルの教育に重点を置くようなカリキュラムを独自に構成して、体育の授業を実施しているようである。これは、カリキュラムの内容を、学校や教師の裁量により、柔軟に修正・変更できるという学校教育環境にあるから可能であったとすることができる。したがって、このような教育プログラムを、そのまま日本で導入しようとしても、学習指導要領等による指導事項の制限から、必ずしも実現できるとは限らないだろう。確かに、わが国でも、社会的スキル教育の学校への導入が試みられてはいるが<sup>54)55)</sup>、特別活動や総合学習の時間を、何時間も使用するというような提案と

なっており、一般的な学校で簡単に実現できるような内容とはなっていない。このような理由から、わが国においては、体育授業における中学生の社会的スキルを同定し、体育授業への適応との関係を検討するような調査研究はあるが<sup>56)</sup>、社会的スキル教育を実際に試みるような学校体育授業での実践的研究は、ほとんど見られないのが現状である。

### 般化の問題

ところで、体育授業を通じてライフスキル教育を行う際に、考慮することが強く要求される問題として、般化の問題がある。体育場面だけである種のスキルが使えるようになって、それは、ライフスキルの獲得とは言えない。体育授業を越えた場所、他の学習場面や日常生活で用いることができるようになってはじめて、ライフスキルが身についたと言うことができる。これまでに言及した学校体育授業における研究の多くでは、必ずしも、体育場面での心理社会的スキルと日常場面で用いることができる心理社会的スキル、すなわちライフスキルとを明確に区別しているとは言えないようである。

スポーツ場面で学習された心理社会的スキルが、日常場面に般化されて、ライフスキルとなるという指摘は、しばしばなされている<sup>57)58)59)60)61)</sup>。このことは、体育授業を対象とした場合においても当てはまることが予想される。しかしながら、幼児がある特定場面で獲得した社会的スキルや行動がどのような条件で般化されるのかについての研究は行われているが<sup>62)</sup>、児童・生徒の授業における心理社会的スキルが、どのように般化されるのかについて検討している研究は、必ずしも多くない。以下に、その一部を示しておく。

Giebink & McKenzie<sup>63)</sup>は、大学で実施された、小中学生対象のスポーツ・サマープログラムにおいて、スポーツマンシップ行動の変化、及び、その行動が指導的なスポーツ活動とレクリエーションスポーツ活動との間で般化されるのかを検討した。結果、スポーツマンシップ行動は全般的に向上したが、場面間の般化は認められなかった。

Sharpe ら<sup>64)65)</sup>は、小学校の体育授業で、向社会的行動を指導するとともに、それらが、他の授業へと般化されるのかを検証した。その結果、体育授業でのリーダーシップ行動や問題解決行動に対しては、

一定の指導の効果が認められ、また、同時期に行われている一般的な授業への般化も確認された。しかしながら、体育授業での介入がなくなると、一般授業での効果も失われるという結果となっており、外的介入による般化には限界があるのではないかと論じている。

これらの研究結果からも推測されるが、体育授業で獲得された心理社会的スキルを、日常でも有効なライフスキルへと般化させるためには、何らかの手続きが必要であると考えられる。スポーツの心理学的研究においても、単にスポーツをしているだけで心理社会的スキルが身につくわけではなく<sup>66)67)68)</sup>、また、スポーツ場面で獲得された心理社会的スキルも、適切な介入をしなければ、日常場面でも役立つものとはならない<sup>13)24)27)28)</sup>、ということがしばしば指摘されている。

しかし、その一方で、学校体育の目標には、「課題の解決を目指して練習の仕方を工夫する」といった問題解決スキルや、「互いに協力して活動を行うことができるようになる」という対人関係スキルの育成に関わる内容が含まれている<sup>69)70)71)</sup>。これらは、ライフスキルの要素とみなされるものであるため、学習指導要領に基づいた教育を行えば、自ずとライフスキルが身につくと考えることも可能である。しかしながら、前述したように、体育授業で用いることができるようになったスキルを、日常でも役立つライフスキルとするためには、それなりの手続きが必要であることを鑑みると、何かしらの介入が必要になるであろう。このようなことから、体育授業を通じたライフスキル教育を有効なものとするためには、時間的制約がある中で、効率的な般化を促進する方策を検討することが、必須の課題となる。

### 今後の課題

以上、スポーツを通じたライフスキル教育プログラムとその実践成果、及び、学校体育授業で行われているライフスキル関連教育（社会的スキル教育）に関する研究のレビューを通じて、わが国における体育を通じた児童・生徒のライフスキル教育の可能性を検討してきた。学校体育の新たな可能性を見出すためにも、このようなテーマでの研究や実践が、今後、活性化されていくことが望まれるのだが、そのためには、体育授業を通じてライフスキ

ルを獲得させるための条件を明らかにしていかなければならないだろう。そこで、以下に、研究・実践のためのいくつかの視点を提示する。

#### ・なぜ体育の授業なのか

体育の授業だけでなく、他の教科の授業においても、様々な心理社会的スキルを身につけることができ、ひいては、ライフスキルの獲得に結びつけることが可能であるだろう。たとえば、問題解決スキルなどは、他のいくつかの教科においても、重要視されているスキルである<sup>69)70)71)</sup>。このような中で、ライフスキルの獲得に及ぼす体育独自の効果を明らかにする必要があるだろう。「体育授業だからこそ、ライフスキルの習得が効率的・効果的である」ということを説明しうるような理論、モデルの構築が期待される。

#### ・どのようなスキルを対象とすべきか

ライフスキルを構成するスキルは、多数存在しているが、学校教育場面でターゲットとしうるスキルは、限られてくるかもしれない。したがって、重要であると考えられるいくつかの要素スキルに焦点を当てて、スキル教育を行う必要があると思われる。もちろん、前項での議論と同様に、体育の授業での習得がふさわしいスキルを同定することも、重要な課題であるだろう。

#### ・どのような教師の指導・関わりが必要なのか

単に運動・スポーツ活動をしているだけで、有益な心理社会的スキルが身につくとは限らない<sup>66)67)68)</sup>ことから、ライフスキルの獲得に結びつけるためには、教師による適切な介入が必要になる。しかしながら、体育の指導をしつつ、心理社会的スキルを教え、さらにはライフスキルへの般化を促進するための指導を行うことは、必ずしも容易なことではない。実際の教育現場に、できるだけ効率的な指導方策を提案していくことが、研究サイドには要求されるだろう。授業で用いられた心理社会的スキルが日常場面でどのように役立つかを意識させるだけでも、何かしらの効果があるかもしれず、また、上野<sup>37)38)</sup>が主張するように、それらのスキルが役立つという信念あるいは価値意識を高めることも、般化のための必要条件であるかもしれない。今後の検討が期待される場所である。

#### ・どのような授業環境が必要なのか

ライフスキル獲得を促すような体育授業環境は

どのようなものであるのかについては、ほとんど明らかになっていない。体育授業での社会的スキルと適応感との関係が指摘されている<sup>56)</sup>ことから、授業での適応感が、体育場面での心理社会的スキルやライフスキルの獲得を促進するかもしれない。あるいは、ライフスキルに対する価値意識を高めるような動機づけ雰囲気の影響することも推測されよう。

わが国での、学校体育の授業を通じてライフスキルを高めようという試みは、今、まさに始まろうとしているところである。このような試みは、諸外国とは異なる教育システムの中で、独自の方策に基づいて行われなければ、十分な効果は得られないものであるとも考えられる。今後、新たな視点に基づいたオリジナルな研究、実践が期待される場所である。

## 文 献

- 1) WHO (編) (川畑徹朗, 西岡伸紀, 高石昌弘, 石川哲也監訳) (1997): WHO・ライフスキル教育プログラム. 大修館書店, Pp.112.
- 2) 上野耕平 (2007): 運動部活動の一環として実施される郵便アルバイト-生徒は何を経験し、どのように解釈するのか-. 日本スポーツ心理学会第34回大会研究発表抄録集, 58-59.
- 3) 高山昌子, 土屋裕睦 (2007): ライフスキル獲得を目指した授業実践-大学における体育実技授業における効果-. 日本スポーツ心理学会第34回大会研究発表抄録集, 154-155.
- 4) 椎名純代 (2007): スポーツライフスキルを体感する~アクティビティを通じて~. 日本スポーツ心理学会第34回大会研究発表抄録集, 24.
- 5) 清家輝文, 能勢康史, 青柳徹, 島本好平, 上野耕平 (2007): アスリートのためのライフスキル教育. 日本スポーツ心理学会第34回大会研究発表抄録集, 16-17.
- 6) Danish SJ, Petitpas AJ, Hale BD (1992): A developmental-educational intervention model of sport psychology. *The Sport Psychologist*, 6: 403-415.
- 7) Danish SJ, Petitpas AJ, Hale BD (1993): Life development intervention for athletes: Life skills

- through sports. *The Counseling Psychologist*, 21:352-385.
- 8) Danish SJ, Petitpas AJ, Hale BD (1995): Psychological interventions: A life development model, In Murphy SM (ed.), *Sport psychology interventions*. Human Kinetics, Champaign, pp.19-38.
- 9) Danish S (1997): Going for the goal: A life skills program for adolescents, In Albee GW & Gullotta TP (eds.), *Primary prevention*. Sage Publications, Thousand Oaks, pp.291-312.
- 10) Danish SJ (1996): Intervention for enhancing adolescents' life skills. *The Humanistic Psychologist*, 24(3): 365-381.
- 11) Danish SJ and Nellen VC (1997): New roles for sport psychologists: Teaching life skills through sport to at-risk youth. *Quest*, 49: 100-113.
- 12) Danish, SJ (2002): Teaching life skills through sport, In Gatz M, Messner MA, Ball-Rokeach SJ (eds.), *Paradoxes of youth and sport*. State University of New York Press, Albany, pp.49-60.
- 13) Hodge K and Danish S (1999): Promoting life skills for adolescent males through sport, In Horne AM and Kiselica MS (eds.), *Handbook of counseling boys and adolescent males: A practitioner's guide*. Sage Publications, Thousand Oaks, pp.55-71.
- 14) Danish SJ (2000): Youth and community development: How after-school programming can make a difference, In Danish SJ & Gullotta TP (eds.), *Developing competent youth and strong communities through after-school programming*. CWLA Press., Washington DC, pp.275-301.
- 15) Danish SJ, Forneris T, Wallace I (2005): Sport-based life skills programming in the schools, In Maher CA (ed.), *School sport psychology: Perspectives, programs, and procedures*. Haworth Press, New York, pp.41-62.
- 16) Danish SJ, Fazio RJ, Nellen VC, Owens SS (2002): Teaching life skills through sport: Community-based programs to enhance adolescent development, In Van Raalte JL and Brewer BW (eds.), *Exploring sport and exercise psychology (2nd ed.)*. American Psychological Association, Washington DC, pp.269-288.
- 17) Danish SJ (2001): The First Tee: Teaching youth to succeed in golf and life, In Thomas PR (ed.), *Optimising performance in golf*. Australian Academic Press, Brisbane, pp.67-74.
- 18) Petitpas AJ and Champagne DE (2000): Sports and social competence, In Danish SJ and Gullotta TP (eds.), *Developing competent youth and strong communities through after-school programming*. CWLA Press, Washington DC, pp.115-137.
- 19) Carr C and Bauman NJ (2002): Life skills for collegiate student-athletes, In Etzel EF, Ferrante AP, Pinkney JW (eds.), *Counseling college student-athletes: Issues and interventions (2nd ed.)*. Fitness Information Technology, Morgantown, pp.281-307.
- 20) Hellison D (2003): *Teaching responsibility through physical activity (2nd ed.)*. Human Kinetics, Champaign, Pp.166.
- 21) Hodge K, Cresswell S, Sherburn D, Dugdale J (1999a): Physical activity-based lifeskills programme: Part I – Lifeskills & the Health/PE curriculum. *Journal of Physical Education NZ*, 32, 8-11.
- 22) Hodge K, Cresswell S, Sherburn D, Dugdale J (1999b): Physical activity-based lifeskills programme: Part II – Example programmes. *Journal of Physical Education NZ*, 32, 12-15.
- 23) Danish S, Hodge K, Heke I, Taylor T (2003): Sport, Childhood, In Gullotta TP and Bloom M (ed.), *Encyclopedia of primary prevention and health promotion*. Kluwer Academic/Plenum Publishers, New York, pp.654-658.
- 24) Danish SJ, Fornesis T, Hodge K, Heke I (2004): Enhancing youth development through sport. *World Leisure*, 46(3): 38-49.
- 25) Sherman C (2000): Teaching performance excellence through life skills instruction: An integrated curriculum (part 1). *Strategies*, 14(2): 24-29.
- 26) Sherman C (2001): Teaching performance excellence through life skills instruction: An integrated curriculum (part 2). *Strategies*, 14(3): 19-23.
- 27) Papacharisis V, Goudas M, Danish SJ, Theodorakis Y (2005): The effectiveness of teaching a life skills



- program in a sport context. *Journal of Applied Sport Psychology*, 17: 247-254.
- 28) Brunelle J., Danish SJ, Forneris T (2007): The impact of a sport-based life skill program on adolescent prosocial values. *Applied Developmental Science*, 11(1): 43-55.
- 29) The First Tee (2007): Impact report 2003-2006. [www.thefirsttee.org](http://www.thefirsttee.org), Pp.6.
- 30) Petitpas AJ, Van Raalte JL, Cornelius AE, Presbrey J (2004): A life skills development program for high school student-athletes. *Journal of Primary Prevention*, 24(3): 325-334.
- 31) Barclay G, Hodge K, Potrac P (2005): SMARTT: A lifeskills intervention for youth soccer players. ISSP 11th World Congress of Sport Psychology, PTL05.
- 32) Tester GJ, Watkins GG, Rouse I (1999): The Sports Challenge international programme for identified 'at-risk' children and adolescents: A Singapore study. *Asia-Pacific Journal of Public Health*, 11: 34-38.
- 33) O'Hearn TC and Gatz M (1999): Evaluating a psychosocial competence program for urban adolescents. *Journal of Primary Prevention*, 20(2): 119-144.
- 34) O'Hearn TC and Gatz M (2002): Going for the Goal: Improving youths' problem-solving skills through a school-based intervention. *Journal of Community Psychology*, 30(3): 281-303.
- 35) 上野耕平, 中込四郎 (1998): 運動部活動への参加による生徒のライフスキル獲得に関する研究. *体育学研究*, 43: 33-42.
- 36) 上野耕平 (2001): 運動部活動における生徒のライフスキル獲得とコミットメントの関係. *日本スポーツ教育学会第20回国際大会論集*, 155-160.
- 37) 上野耕平 (2006): 運動部活動への参加による目標設定スキルの獲得と時間的展望の関係. *体育学研究*, 51(1): 49-60.
- 38) 上野耕平 (2007): 運動部活動への参加を通じたライフスキルに対する信念の傾性と時間的展望の獲得. *体育学研究*, 52(1): 49-60.
- 39) 吉田安宏, 徳永幹雄 (2002): 運動・スポーツ経験とライフスキル. 徳永幹雄 (編著), *健康と競技のスポーツ心理*. 不昧堂出版, pp.156-166.
- 40) 杉山佳生 (2004): スポーツとライフスキル, 日本スポーツ心理学会 (編), *最新スポーツ心理学: その軌跡と展望*. 大修館書店, pp.69-79.
- 41) Papacharisis V (2006): The role of the physical education in teaching life skills. *Inquiries in Sport and Physical Education*, 4:198-210.
- 42) Kolovelonis A, Goudas M, Dimitriou E, Gerodimos V (2006): The effect of a life skills training program on students' self-determination. *Inquiries in Sport and Physical Education*, 4: 379-389.
- 43) 市村操一, 中川昭 (2002): 体育と社会的スキル教育, 市村操一, 阪田尚彦, 賀川昌明, 松田泰定 (編), *体育授業の心理学*. 大修館書店, pp.104-109.
- 44) Auweele YV (2007): Promotion of social skills for life, In Liukkonen J, Auweele YV, Vereijken B, Alfermann D, Theodorakis Y (eds.), *Psychology for physical educators: Student in focus (2nd ed.)*. Human Kinetics, Champaign, pp.73-74.
- 45) Lintunen T and Kuusela M (2007): Social and emotional learning in physical education, In Liukkonen J, Auweele YV, Vereijken B, Alfermann D, Theodorakis Y (eds.), *Psychology for physical educators: Student in focus (2nd ed.)*. Human Kinetics, Champaign, pp.75-83.
- 46) Telama R and Polvi S (2007): Facilitating prosocial behaviour in physical education, In Liukkonen J, Auweele YV, Vereijken B, Alfermann D, Theodorakis Y (eds.), *Psychology for physical educators: Student in focus (2nd ed.)*. Human Kinetics, Champaign, pp.85-99.
- 47) Bailey R (2006): Physical education and sport in schools: A review of benefits and outcome. *Journal of School Health*, 76(8): 397-401.
- 48) Branta CF and Goodway JD (1996): Facilitating social skills in urban school children through physical education. *Journal of Peace Psychology*, 2(4): 305-319.
- 49) Solomon BG (1997) Fair play in the gymnasium: Improving social skills among elementary school students. *Journal of Physical Education, Recreation and Dance*, 68(5): 22-25.
- 50) Vidoni C and Ward P (2006): Effect of a dependent

- group-oriented contingency on middle school physical education students' fair play behavior. *Journal of Behavioral Education*, 15: 81-92.
- 51) MacPhail A, Kirk D, Kinchin G (2004): Sport Education: Promoting team affiliation through physical education. *Journal of Teaching in Physical Education*, 23:106-122.
- 52) Siedentop D (2002): Sport Education: A retrospective. *Journal of Teaching in Physical Education*, 21:409-418.
- 53) Wallhead T and O'Sullivan M (2005): Sport Education: Physical education for the new millennium? *Physical Education and Sport Pedagogy*, 10(2): 181-210.
- 54) 佐藤正二, 相川充 (編) (2005): 実践! ソーシャルスキル教育 小学校編. 図書文化社, Pp.208.
- 55) 相川充, 佐藤正二 (編) (2006): 実践! ソーシャルスキル教育 中学校. 図書文化社, Pp.208.
- 56) 佐々木万丈 (2004): 中学生の体育授業における社会的スキルの分析: 性, 学年, 体育授業への適応感に着目して. *体育学研究*, 49(5): 423-434.
- 57) Orlick T (2000): In pursuit of excellence: How to win in sport and life through mental training (3rd ed.). *Human Kinetics*, Champaign, Pp.242.
- 58) Orlick T (2002): Enhancing children's sport and life experiences, In Smoll FL and Smith RE (eds.), *Children and youth in sport: A biopsychosocial perspective* (2nd ed.). Kendall/Hunt Publishing, Dubuque, pp.465-474.
- 59) Orlick T and McCaffrey N (1991): Mental training with children for sport and life. *The Sport Psychologist*, 5: 322-334.
- 60) Smith RE (1999): Generalization effects in coping skills training. *Journal of Sport and Exercise Psychology*, 21: 189-204.
- 61) Smith RE and Smoll FL (2002): Youth sports as a behavior setting for psychosocial interventions, In Van Raalte JL and Brewer BW (eds.), *Exploring sport and exercise psychology* (2nd ed.). American Psychological Association, Washington DC, pp.341-371.
- 62) Chandler LK, Lubeck RC, Fowler SA (1992): Generalization and maintenance of preschool children's social skills: A critical review and analysis. *Journal of Applied Behavior Analysis*, 25: 415-428.
- 63) Giebink MP and McKenzie TL (1985): Teaching sportsmanship in physical education and recreation: An analysis of interventions and generalization effects. *Journal of Teaching in Physical Education*, 4: 167-177.
- 64) Sharpe T, Brown M, Crider K (1995): The effects of a sportsmanship curriculum intervention on generalized positive social behavior of urban elementary school students. *Journal of Applied Behavior Analysis*, 28(4): 401-416.
- 65) Sharpe T, Crider K, Vyhidal T, Brown M (1996): Description and effects of prosocial instruction in an elementary physical education setting. *Education and Treatment of Children*, 19(4): 435-457.
- 66) Bakker FC (1999): Psychological outcomes of physical education, In Auweele YV, Bakker F, Biddle S, Durand M, Seiler R (eds.), *Psychology for physical educators*. Human Kinetics, Champaign, pp.69-71.
- 67) Ewing ME, Gano-Overway LA, Branta CF, Seefeldt VD (2002): The role of sports in youth development, In Gatz M, Messner MA, Ball-Rokeach SJ (eds.), *Paradoxes of youth and sport*. State University of New York Press, Albany, pp.31-47.
- 68) Shields DL, Bredmeier BL, Power FC (2002): Character development and children's sport, In Smoll FL and Smith RE (eds.), *Children and youth in sport: A biopsychosocial perspective* (2nd ed.). Kendall/Hunt Publishing, Dubuque, pp.537-559.
- 69) 文部科学省 (編) (2004): 小学校学習指導要領 [改訂版]. 国立印刷局, Pp.105.
- 70) 文部科学省 (編) (2007): 中学校学習指導要領 [平成 19 年 3 月改正版]. 国立印刷局, Pp.123.
- 71) 文部科学省 (編) (2007): 高等学校学習指導要領 [平成 19 年 3 月改正版]. 国立印刷局, Pp.407.